

参考資料

資生堂、「化粧品成分の動物実験廃止を目指す」円卓会議を開催

株式会社 資生堂(東京都中央区:代表取締役社長 前田新造)は、2010年6月2日(水)14時より資生堂汐留オフィス(東京都港区)において、動物愛護団体・福祉団体、動物実験代替法や安全性研究の専門家、弁護士など計7名の社外有識者に参加いただき、「化粧品成分の動物実験廃止を目指す」円卓会議を開催しました。会議では、動物愛護の精神や動物実験を行わない安全性試験の在り方等について、活発な意見交換が行われました。

当社は、本年3月に動物実験廃止に向けた取り組みを策定しており、本円卓会議はその取り組みの一環です。本円卓会議は今後も継続して開催し、動物実験廃止と更なる安全性追求の両立に向け、意見交換を重ねていく予定です。

動物実験廃止に向けた資生堂の取り組み

当社は、化粧品開発において、商品そのものを使った動物実験は実施しておりません。今後は化粧品の原料についても、2011年3月までに自社での動物実験をすべて廃止します。ただし、法規で定められている場合や、現在の科学の水準では動物実験の代替法の選択肢がまったくなく、商品の安全保証上やむをえない場合については、外部機関に委託します。さらに、動物実験廃止に向けた取り組みに最も先進的である「EUの法規(EU化粧品指令)」にあわせ、2013年3月までにこれらの外部委託の安全性試験も含めて動物実験の廃止を目指す方針です。

安全性との両立

当社は、日本を含む世界各国で定められた法規を遵守し、より安全な商品をお客さまに提供することを第一義としています。商品の安全性を保証する試験においては、1980年代から動物実験の代替法の研究開発に取り組んできました。これまで開発した代替法は、広く活用されることを意図し、国内外の専門学会で公表し、その成果を高く評価いただいています。

また、当社が保有する感作性試験※代替法の特許については、代替法の研究の進展に役立つよう、本年6月より国内でのロイヤリティ収入を日本動物実験代替法学会に全額寄付します。

当社は、今後も国内外の産官学と連携し、代替法の開発に取り組み、動物実験の廃止と安全性の両立を目指します。

※皮ふに塗布したとき、アレルギーが起こらないかを調べる試験。